

赤羽別院報 第56号
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
 Tel・FAX (0563)72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

何を大切に生きるのか



この殉教記念法要は大正十四年から続けられている法要で、私の計算が間違っていないければ、九十三回目の法要となります。その発端は明治四年の大浜騒動にあります。明治政府は近代国家を建設していく中で、天皇崇拜を核とする国家神道を強要し、仏より神が上であるとする「神仏判然令」が出されましたが、これが全国各地で寺院破壊、仏教排斥という「脱仏毀釈」に発展したわけですが、碧南全城、西尾、安城、豊田の一部を占める菊間藩が、統括をはかるため大浜に出張所を構え、寺院の統廃合、僧侶の帰俗、天照大神や歴代天皇の崇拜を強制したのです。

この殉教記念法要は大正十四年から続けられている法要で、私の計算が間違っていないければ、九十三回目の法要となります。その発端は明治四年の大浜騒動にあります。明治政府は近代国家を建設していく中で、天皇崇拜を核とする国家神道を強要し、仏より神が上であるとする「神仏判然令」が出されましたが、これが全国各地で寺院破壊、仏教排斥という「脱仏毀釈」に発展したわけですが、碧南全城、西尾、安城、豊田の一部を占める菊間藩が、統括をはかるため大浜に出張所を構え、寺院の統廃合、僧侶の帰俗、天照大神や歴代天皇の崇拜を強制したのです。

配し、豊かな社会を目指してきたのです。誰もが豊かになれたら幸せになると思ってしまう。人が自分をどう評価しているか、自分がどう評価しているか、という経済的有用性があるかどうかだけの話です。むしろ豊かになった結果、関係性が希薄になり、逆に現代人は孤独とむなしさ、不安を抱えこんでしまったのです。ですから益々依存傾向が強まっています。自分を失っていくのです。その社会を作ったのも実は、私たちの自我分別にあることも忘れてはならないでしょう。

大浜騒動以前は、人間は愚かであるという南無阿弥陀仏の大きないのちのほたらきの世界の中で、いつも自分を見つめなおす大切な大地を持っていました。つまり「真のよりの」を大切に生きていたのです。自分が生活する場所のものが、自分の存在をまるごと包んでいたのです。換言すれば、人間は絶対どころか、愚かな凡人だ。そういう自覚を通して、常に孤独とむなしさから解放され、今を生かされるお念仏に出会い続けてきたのです。それは同時に自分に出会い続けてきたのです。その場が喪失し、大きな国家システム、大きな経済システムに組み込まれてしまったのです。

世界を捨て去り、独立した絶対的な「私」(自我分別)を立てていくので、確固たる拠り所、存在根拠を持ち得ないのです。思い込んだ自分を自分として生き、思い通りになればよく、ならなければ駄目という自我分別(人間の思い)の世界に埋没してしまっ

世界を捨て去り、独立した絶対的な「私」(自我分別)を立てていくので、確固たる拠り所、存在根拠を持ち得ないのです。思い込んだ自分を自分として生き、思い通りになればよく、ならなければ駄目という自我分別(人間の思い)の世界に埋没してしまっ

■講師プロフィール
 本多 雅人(ほんだ まさと)
 1960年、東京都生まれ
 東京教区東京二組蓮光寺住職。東本願寺同朋会館教導。元親鸞仏教センター嘱託研究員。元高校教員。2006年より東本願寺の「同朋新聞」「人間といういのちの相」のインタビューを勤める。「今を生きている親鸞」(共著 樹心社)「親鸞ルネサンス」(共著 明石書店)「愚に帰る」(名古屋別院叢書)「往生の生活」(高岡教務所)他多数

世界を捨て去り、独立した絶対的な「私」(自我分別)を立てていくので、確固たる拠り所、存在根拠を持ち得ないのです。思い込んだ自分を自分として生き、思い通りになればよく、ならなければ駄目という自我分別(人間の思い)の世界に埋没してしまっ

逆なのです。それこそが虚妄顛倒と呼びかけます。生きるといふことは、思い通りにならないけれども、それでも自分の人生に深いうなずきを持って生きていく道があるのだ。それは、自分解放された。その思いから解放されたのです。だから念仏を申すというところは(衆生聞名)、私の思いを突き破って、聞こえてくる形しかないのです。いくつから真宗の教えを知的理解してもけつて生きる力にならないのです。聞こえてくるまで聞法する、そのこと一歩です。「生老病死」といふ言葉があります。四苦と言われるものですが、根本は「生苦」にあります。なぜ生まれてくることが苦しみなのでしょう。人間は白紙で生まれてはきません。自我分別心をもって生まれてくるのです。最初オキヤーンと生まれて来た時は、無分別のいのちの叫びをもっています。しかし、成長を出し始めるのです。その自我分別心が老病死の苦しみを生むわけです。分別する心は、ありのままを分けるわけです。老いたくない、病気をしたくない、死にたくない。そうやって自分の思いの中で自分の都合を生きているだけで、縁を無視して生きていくのです。

逆なのです。それこそが虚妄顛倒と呼びかけます。生きるといふことは、思い通りにならないけれども、それでも自分の人生に深いうなずきを持って生きていく道があるのだ。それは、自分解放された。その思いから解放されたのです。だから念仏を申すというところは(衆生聞名)、私の思いを突き破って、聞こえてくる形しかないのです。いくつから真宗の教えを知的理解してもけつて生きる力にならないのです。聞こえてくるまで聞法する、そのこと一歩です。「生老病死」といふ言葉があります。四苦と言われるものですが、根本は「生苦」にあります。なぜ生まれてくることが苦しみなのでしょう。人間は白紙で生まれてはきません。自我分別心をもって生まれてくるのです。最初オキヤーンと生まれて来た時は、無分別のいのちの叫びをもっています。しかし、成長を出し始めるのです。その自我分別心が老病死の苦しみを生むわけです。分別する心は、ありのままを分けるわけです。老いたくない、病気をしたくない、死にたくない。そうやって自分の思いの中で自分の都合を生きているだけで、縁を無視して生きていくのです。

別院行事のご案内
 報恩講に向けて清掃奉仕
 教化センタースタッフ 合同
 赤羽ブロック世話会
 10月6日(土) 午前7時~午前9時
 ※詳細は4ページ

報恩講 ほうおんこう
 10月14日(日) 午後1時30分
 法話 名古屋教区 正林寺 犬飼 祐三子師
 10月15日(月) 午前10時~午後1時
 法話 第7組 浄専寺 安藤 博徳師
 10月16日(火) 午前10時~午後1時
 法話 第13組 明榮寺 小谷 香示師
 ※15日、16日はお祈りがあります。
 ※詳細は4ページ

声明研鑽会 しょうみょうけんざんかい
 10月より毎月28日 午後7時より
 ※詳細は4ページ

除夜の鐘(初鐘) じよのかねはつがね
 12月31日(月) 午後11時30分より
 鐘撞きは先着順・どなたでも可

修正会 しゆしょうかい
 1月1日(火) 午前1時(初鐘に引き続き)
 法話 輪 番 三浦 真教師

晨朝法話 じんじょうほうわ(午前7時)
 10月13日(土) 第9組 祐正寺中村 祐介師
 10月28日(日) 同 福泉寺 木村 圭師
 11月13日(火) 第10組 法園寺 石川祐美子師
 11月28日(水) 同 明泉寺 御館 誠師
 12月13日(木) 第11組 恵教寺 大河内正憲師
 12月28日(金) 同 浄徳寺 大藤 順徳師

赤羽別院案内図

赤羽別院 安城一色線
 一色駅前
 赤羽別院
 吉崎仏店
 高須病院
 初地交差点から5700米

本多雅人師講話要旨
 殉教記念法要
 平成30年6月5日

修嚴講座天暁

「お念仏のよろこび」 「本願に聞く」

旭暑を過ぎ、残暑の中にも朝夕のさわやかなひとりの8月25・26日の両日、赤羽別院では朝6時より暁天講座が開かれた。

三浦輪番による調声に始まり、お御堂内には大勢の参詣者の動行の音が響きわたっていた。

法話講師は、初日に第11組惠教寺若院・大河内真慈師、二日目は第18組(岡崎市矢作町)の徳乃寺住職・戸松憲仁師をお招きしてお話をいただいた。

大河内師は「お念仏のよろこび」を課題に、「元専修学院院長の竹中智秀師が説かれた「如来さまの願いである撰取不捨は、選ばず・嫌わず・見捨てず」というお話を日常生活の中から事例を取り上げ、それを仏法に照らし合わせた内容で、大河内師自身の身を通した仏さまの教えを聞かせていただいた。



三浦依文唱和

二日目の戸松師は「本願に聞く」を課題に、「大無量寿経」に説かれた四十八願のなかの、第十八願を親鸞聖人は念仏往生の願・本願のなかの大本願と説かれたというお話をされたほか、念仏を「唱える」ということの違いについて笑いを交えてお話しされ、瞬く間に時間が過ぎた。

終了後は聴聞者の一人ひとりが御法をいただいた満足感で溢れるような表情を浮かべていた。

責任役員就任 泉 敬祐師

平成30年7月1日
赤羽別院親宣寺
責任役員就任

第11組・聖蓮寺住職
泉 敬祐師



就任のごとば

このたびは、赤羽別院親宣寺の責任役員に任命され、代表役員である輪番、そして他の責任役員の皆様とともに、別院の運営に携われることになりました。皆さまには何かとご迷惑をおかけするかと存じますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

外陣を増設

本年8月初旬に、赤羽別院お御堂の外陣増設工事が実施され、新たに6枚の畳が敷かれました。これにより、より多くの方の出仕が可能になりました。多くの方の出仕・ご参詣が願われます。

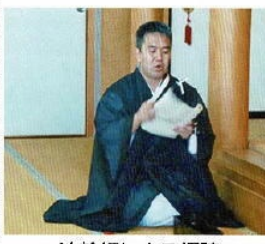


法輪篤師の法話

夏の御文法要厳修

本年7月15日、赤羽別院にて、夏の御文法要が厳修された。夏の御文は、本願寺第八代蓮如上人が明応7(1498)年に書き遺された四通のお手紙であり、毎日のお勤めのなかで拝読される五帖の御文とは別の御文である。

赤羽別院では毎年一冊ずつ、この夏の御文を繰り読みし、その意に聞いていく場として法要が続いている。



法輪師による拝読

当日は猛暑のため、熱中症の警報が出るほどであったが、お御堂は参詣者で満ちたが、最初に「正信偈」のお勤めがあり、その後、第18組慶徳寺住職・法輪篤師より「夏の御文」第二通の拝読があり、全員がその言葉ひとつひとつに耳を傾けた。

続けて法輪師より法話をいただき、法話した御文にどのようなことが書かれているのかを聴聞者とともにたずねていった。

師はお話のなかで「御文」のなかでは最も馴染みがあるであろう五帖目第一通の「未代無智」という言葉について確かめられた他、印象に残った絵本を紹介される等して、聴聞者は曇さを忘れ聞き入っていた。

報恩講にむけて 助音講をお勤め

私たち真宗の教えを聞く者にとって大切な仏事である報恩講に向けて、本年9月1日に、一緒に助音講をお勤めするため、講師は赤羽別院の列座でもあり、第8組宿禰寺の織田頭慶師です。

正信偈裏四句目下を精一杯お勤めしてください。」と話され、稽古中も織田師自身が丁寧にハッキリと大きな声でお勤めをしてくださったため、参加者の声も次第に高らかになっていました。



質疑応答の時間には参加者より「お勤めの声の高さは、お坊さんの声に合わせてするものなのではないですか?」という質問がありました。織田師は「はい、そうです。できるだけ声を合わせてください。」と答えてくださいました。

後日、9月15日と29日にも助音講がお勤めされ、師の動行に対する熱い思いを受けとりながら、皆がともに研鑽を積み重ね、各地の報恩講で動行の声が高らかに響く様子を想われるような場となりました。

団休参拝三話 大垣と近江より来院



浅野主幹からの説明

京都教区より近江第一組来院
本年6月12日、京都教区近江第一組一行が大型バス3台に乗り、赤羽別院に来院された。

一行は、お御堂にて「正信偈」のお勤めをされた後、記念誌「よみがえる赤羽別院親宣寺の歴史」を手にしながら、三浦輪番より別院の歴史についてのお話に耳を傾けた。

続けて、浅野主幹より教化センターの活動・組織について説明された。

去る6月23日、大垣教区第16組・淨雲寺(宮堂宏住職)「問問会」の一行16名が赤羽別院に来院された。

「問問会」とは、仏法聴聞に励むご門徒さんらで構成される会の名称である。今回は巡跡研修の一環として、田原の龍泉寺・聖橋別院を参拝された後、当別院に来院された。

当日は、生憎の雨模様であったが、三河随一と謳われる山門を見上げ、響の音があちこちであらった。

一行は、三浦輪番より三河地震、伊勢湾台風等の災害にも近在門徒が丸となり維持されてきた別院の歴史を聞いた。

ついでの説明がされ、最後は山門と青空を背景に記念撮影を行った。

一行は「一色やかな広場」に足を運び、帰途につかれた。

大垣教区淨雲寺「問問会」来院

その後は、浅野主幹より教化センターの成り立ちと、現在取り組んでいる教化事業の概要の説明があり、最後は、雨の上がった山門前に並び、お御堂を背に記念撮影をして、帰路につかれた。

今回、両団体の接待にあたっては、別院の世話方さん達が尽力されており、こうしたところにも別院維持の是たらしきを感じさせられるようであった。



問問会一行

お楽しみがいっぱい 福正寺子ども会開催

今年も夏も第8組福正寺では、福正寺子ども会が開催された。

今年も「夏休み最後の思い出に」という思いから夏休み最後の一週間に集中して行われた。

8月27日の朝7時から始まったお勤め会では、子ども達が大きな声で、「正信偈」と「御文」を読み、最後の「あなかしこ」まで元気のよい声が絶えず本堂に響いた。

お勤めが終わると自分達で順番と係を決めてカチャカチャをまわして、カブセルの中に入った景品に目を輝かせていた。



平成25年日本農業賞・食の架け橋賞受賞
低農薬栽培米

是非一度他食べてみて
特別西尾有機米

お電話 0563-56-2776 西尾市小間町東側7
下さい 杉本 巖

各組が開く夏の聞法会

世俗空間と聖空間 真城義麿師

第8組
夏期講習会



真城義麿師

今年の第8組夏期講習会は二カ寺を会所として8月18日夜は信縁寺(西浅井町)、翌19日の一日通しの会所を慶昌寺(花蔵寺町)に、今年も愛媛県より真城義麿師をお招きし開催された。

今年の講題は「二字のひなを称えつ」として、日々の生活の中で埋没してしまふ大切なことを思い出す場所、確認できる場所をとい

うことから、二つの空間のお話をされた。一つは世俗空間。もう一つは聖空間。世俗空間とは損得勘定の中心を置き、目の前の事に振り回され、常に自我の欲求を満たそうとする空間。もう一つは聖空間として我々が損得に使う自我の心にある物差しは無用性を教えてくださる、人知等では説明ができない空間。

二つの空間の存在から、お念仏の大切さ、お仏壇やお寺の存在意義、またそういう空間に向き合う心を持つことの大切さを丁寧に話された。

二日目は昼食も用意され、みんなで大鍋のお吸い物を堪能し、お互い様のあふれる聖空間が生まれていた。

鶴見晃師 やなせな師

第9組
夏期講習会

本年8月24・25日の両日、吉良町乙川の丁浄寺にて第9組夏期講習会が開催された。

初日は、真宗大谷派教学研究所員の鶴見晃師をお招きし、「現代の不安と真宗」という講題のもと、お話をいただいた。

鶴見師は現代の日本社会には「先行きの見えない不安」が漂っているように感じているとお話され、人生における不安という問題を仏教ではどのように考えるのかを説かれた。

二日目は、奈良県より、シンガーソングライターであり、本願寺派僧侶でもある、やなせな師よりお話をいただいた。

やなせ師は「いのちのふるさとを考える」という講題をだされ、自らが作詞作



やなせ師 鶴見師

曲された歌を紹介しながら、若くして子宮体がんを患われた経験や東日本大震災を通じて思い知らされたこと等、その歌の背景となった出会いをお話され、お念仏の教えにこそ救いをいただいた喜びをお伝えされた。

猛暑にもかかわらず、本堂は参加者で満たされ、両日も盛会であった。

お慈悲の中で 小野正信師の講話

第12組
夏期真宗講座

梅雨のあけぬ7月7日西尾市菱池町徳行寺にて第12組夏期真宗講座が開かれました。

雨上がりばかりの熱い日にも関わらず本堂は参加者で満ちとなりました。

講題は、「お慈悲の中で」。講師には、西尾市吉良町より、浄土真宗本願寺派(お西)教蓮寺の前住職の小野正信師をお招きしました。

小野師は慈悲ということについて「慈悲とは『マイトリ』といえます。友とか友情という意味です。友とか友情というのは不思議ですよね。親子や夫婦関係でもないのに苦しむ時、悲しい時に私の悲しみに共に涙してくれる。これこそ、友というのだと思います。そして、如来さまのお慈悲は、相手の悲しみを私の悲し



小野師の講話を聞きながら、親鸞さまは「どんなことがあっても捨てないよ」という如来さまのお慈悲を、私に届け、伝えてくださるのだと、うなづいて確かめさせていただきました。

とするのです。私みだいに自分のことしか考えられない、その私に向かって「お前が涙しておるならば、その悲しみを私の悲しみとさせてくださいよ」と、常に私を悲しませておられるのです」とお話されました。

10ヶ寺で開催 聖徳太子に学ぶ暁天講座

第11組
暁天講座

本年8月17日から28日まで、十ヶ寺を会場として昨年同様に聖徳太子をテーマに、11組の暁天講座が行われた。そのなかで、8月21日は、常照寺を会場に安藤弥師によりお話をいただいた。

この日は台風の影響が天候が不安定で朝から突発的な雨が降っていたが、会場は趣向に訪れた人たちで満席であった。

安藤師は、聖徳太子がどの様な方であったのか、日本仏教の祖であるだけでなく在家仏教者としての在り方を示された方であるとお話されました。

さらに、親鸞聖人は聖徳太子との出会いを通じて法然上人のお念仏の教えに出遇われ、今日の私達にお念仏の教えが届いているのも聖徳太子の縁であるとお話された。



また親鸞聖人が84歳の頃に、息子の善鸞を養育しなければならなかったことに触れ、十七糸憲法の一和かなるをもつて貴し」とは程遠い自らの姿を知らされたことをきっかけに「上宮太子御記」を編纂され、念仏者としての歩みを確かめられたというお話をされました。

親鸞聖人にとって聖徳太子がどのような存在であったのかをあらためて確認させていただく暁天講座となりました。

信心なきものの救い 佐野明弘師

第13組
夏期真宗講座



佐野明弘師

連日連夜、いのちに関わる危険な暑さが続いた、去る7月23日・24日の両日、第13組主催の夏期真宗講座が、陸勝寺・長壽寺を会場に開催された。

法話講師には、加賀市・光園坊住持の佐野明弘師をお迎えし「信心なきものの救い」と題し、お話をいただいた。

佐野師は「信じようと思っても信じられない我々は、いつも迷いの中にいる。自分の力によって獲る信心と、如来よりの賜りたる信心の違いを親鸞聖人さまに相当し苦勞されたのではないかと。信心を受持することは難中之難であるが、如来の呼び声で、我々はずきずき、気が付き、感動することもあるのです。これが他力です」と指摘された。

最後に「私達は教えを聞く身を如来よりいただき、生涯を迷いの中で生きる事ができます。《私》ではなく《如来》が起点となるのが浄土真宗です」と結ばれた。

なお、24日の午前には「聖典学習会」が開かれ、三願に入について学びを深めた。

蓮如上人に学ぶ生きる力 安藤弥師

第14組
夏期真宗講座



芸術文化ホールにて

第14組夏期真宗講座は、7月20・21日千福寺にて、安藤弥師(岡崎市、浄専寺)を講師にお迎えして「蓮如上人に学ぶ生きる力」をテーマに開かれた。

講座は3部で構成され、20日午前9時半より「蓮如上人御一代記問書」について、午後6時45分からは、会場を碧南市芸術文化ホールに移し、百七十名を超える一般市民の方々と共に「三河と蓮如さん」についてお話を頂き、翌21日は、門徒会員の方と共に、終日「御一代記問書」についてお話を頂いた。

「御一代記問書」は上人の十男実阿の長年に亘る編纂に加え、江戸・明治にも繰り返し編纂されており、多くの人々の関心を集め、読

み継がれた。「御文」は、門徒の信心の拠り所として拝読されたが、その一帖目一通には真宗の根本的な姿勢が書かれている。どこまでも本當の信心を頂くよう繰り返し、時には厳しいお言葉で説かれていると聞かせて頂いた。

自身の内の「生きる力」とは何なのかを問われる二日間となった。

有限会社 芝香園

〒445-0894
西尾市上町宮前20
TEL (0563) 54-4666
FAX (0563) 57-0803

喫茶レストラン
ジャックス
西尾市山下町海原30番地
(西尾市文化会館内)
TEL (0563) 54-5985

集いの場

其三



お勤めの様子

シリーズ「集いの場」では、赤羽別院崇敬区内で開かれていた、各寺院の僧法会や同朋の会の様子をお伝えしていきます。

第三回は、第10組・西尾戸ヶ崎町の妙専寺にて、毎月1日に行われている「定例法座」を取材させていただきました。

名鉄西尾線・桜町駅より徒歩8分、県道319号線を東進すると道沿いに妙専寺の山門と本堂の屋根が目に入る。

妙専寺は、この度本堂の再建が行われる予定で、本年12月2日に本堂の動座式があり、その後起工、東京オリオンビル開催の二〇二十年に竣工が予定されている。

取材に伺った本年8月1日は、最高気温38度の真夏日にもかかわらず、多くの参詣者が御座にいらした。妙専寺の所員に限らず、近隣住民が誘い合ってお参りをしているとのことである。

月に一度、この法座で顔を合わせるという人も多くあり、この日も「元気にしよったか?」と笑顔で声をかけ合っていた。

取材に伺った本年8月1日は、最高気温38度の真夏日にもかかわらず、多くの参詣者が御座にいらした。妙専寺の所員に限らず、近隣住民が誘い合ってお参りをしているとのことである。

月に一度、この法座で顔を合わせるという人も多くあり、この日も「元気にしよったか?」と笑顔で声をかけ合っていた。



織田師の法話

法座は住職の挨拶にはじまり、「阿弥陀経」の読経に続いて、「正信偈」のお勤めで、暑さの中で額に汗をかかべながら全員が大きな声を響かせた。

勤行の後は法話がある。講師は近隣寺院の住職が毎月招かれており、この日は第8組宿禰寺住職の織田雄師がお取次ぎをされ、妙専寺の本堂が再建されるにあたって、念仏と聞法の道場が今日まで相続されてきたことの重みを懇々と説かれた。



ぜんざいを手に

ぜんざいは、数年前の大晦日の鐘つきの際に提供したものが好評を得てから、この定例法座でもふるまわれるようになり、今では妙専寺の定例法座の名物となっている。時には使用される小豆をお同行が持ってきたりすることもあつた。

喜い中、冷たく甘いぜんざいを口にして、顔をほころばせながら語り合う参詣者一同の姿がとても印象的であった。

法話の後には、坊守による手作りのぜんざいがふるまわれる。

赤羽別院報恩講にお参りください

10月14日(日)
初速夜 午後1時30分
法話 名古屋教区正林寺 犬飼祐三子師

10月15日(月)
日中 午前10時
速夜 午後1時
法話 浄専寺 安藤 傳融師

10月16日(火)
結願辰朝 午前10時
結願日中 午後1時
法話 明樂寺 小谷 香示師

15日・16日は
お斎(忌食)の用意があります。
お誘いあわせのうえ
ごなたでもお参り下さい。

赤羽別院にて

10月6日(土)
午前7時~9時
赤羽別院にて

報恩講をお迎えするにあたって「赤羽別院の清掃奉仕を行い、みんなとお話しして報恩講をお勤めしたい」というご門徒さんのお言葉をきっかけとしてこの清掃奉仕が始まりました。

教化センタースタッフとブロッコ世界法会の交流を深め、報恩講をお勤めしたいと思えます。

是非、ご参加下さい。
※赤羽別院には十分な清掃道具(軍手・竹箒・鎌・ぞうきん等)をご持参くださるようお願いいたします。

第11回子ども絵画展

絵を通じて、子ども達に佛寺を身近に感じてもらいたいと開催されている子ども絵画展は、11回目となる今回も多数の応募をいただきました。

関係者で慎重に審査をした結果、次の皆さんの作品がそれぞれ金賞及び銀賞に選ばれ、優秀作品はお御堂内に掲示されるほか、受賞者は赤羽別院に招かれ、記念品を添えて表彰されました。

金賞受賞者

- 一年 杉本正親 さん
- 二年 三矢沙和 さん
- 三年 川邊聖菜 さん
- 四年 久米仔々菜さん
- 五年 松山智裕 さん
- 六年 池田智絵 さん

銀賞受賞者

- 一年 細井理希也さん
- 二年 該当なし
- 三年 荻川叶愛 さん
- 四年 藤井大河 さん
- 五年 立野颯 さん
- 六年 荻川まほろさん
- 六年 藤井大和 さん



受賞された子どもさんたち

崇敬寺院の新任職

第11組・正念寺
平野 知 師

平成30年6月28日就任
【ひとこと】
住職として、開基以来、幾多の御門徒が譲り伝えてきた法灯を引き継ぎ、ただただ事に身の引き締まる思いです。
今後とも、よろしくご指導をお願い致します。

書籍紹介

本年4月の第10組「同朋のつどい」における池田勇師の講義を講義録として編集しました。ぜひ一読ください。
◆一部300円(送料別)
◆問い合わせ056563
57・5011(順正寺)

声明研鑽会

10月より儀式部主催の声明研鑽会を開催します。

【日時】毎月28日19時より
【会場】赤羽別院
【対象】寺族
【講師】織田顯慶師
皆さまのご参加をお待ちしています。

赤羽御坊を 読みませんか

本紙「赤羽御坊」は赤羽別院崇敬区内の寺院より配布され、別院近隣の御門徒にお読みたいと思いますが、崇敬区外への頒布も行っています。郵送をご希望の方は赤羽別院までご連絡下さい。
※連絡先は1ページ

赤羽御坊新聞懇志

第10組 巖西寺同行中 様

物品寄贈
境内砂利 三矢平市 様
御線香 高須芳子 様
外陣畳表替え 吉崎節子 様
玄米 30kg 山中一重 様
お斎用皿 70枚 おあさじ会様
無量寿額 安樂寺 様

披露

外陣置 六堂
貴重なご懇志をありがとうございました。

編集室

赤羽御坊の編集のお仲間に入れて頂くようになって、一年が過ぎた。顔の見えない人に読んで頂く文章を書くには、頭の中、この数年使ったことのない部分を駆使して、先輩方の言われた事を聞き逃さぬように、なかなか大変! やっと一年過ぎたと言っているのか、知らぬ間に時が過ぎてしまったと言えはいいのか。時とは不思議なもので、例えばサッカーのゴールの瞬間を思うと、アツという間の出来事なのに何度も繰り返し見たくなる。トンボやセミが止まっている姿は、何となく懐かしい。息を凝らして見ていた。「新世界」を繰り返して聴いていた頃は、しコードの針が、小さな音をたてて曲が終わると不思議な感じがしたものだ。もっと不思議な時がある。私の気になつていない言葉の中に、助というのがある。パソコンで漢字変換しようとする時、数回も変換しない出てこない普段あまり使わない文字。十里四方の岩をとか、十里四方の中の下りの実の粒をとか、3年に一度天女が下りてきてと、計り知れない仏様の不思議な時を表現する言葉です。

第19回御坊俳壇・川柳

併句(順不同) 暹者 三浦 貞葉氏他

心頭も滅却できぬ暑さかな
泥を出て浄土の使ひ連の花
門火吹く亡母の故郷遠くなり
合掌のポーズとなりて蓮見かな
山寺の大戸に籠もる残暑かな
窓開けて佛間に通す青田風
消えかかる「天保」の文字盥洗ふ
御佛に背を向けばはばの大屋敷
草刈りに道なき道を拓きけり
縁側に盆の風賑く一人かな
川柳(順不同)

台風もついに惚けたか逆走す
親不孝詫びて一心基洗う
被災地の支援減らして兵器買う
お知らせ 定例の第20回御坊俳壇・川柳の締切は 11月5日(月)です。

平岩 芳魚
佐藤 哲也
小林 千里



三浦 貞葉氏他